

小山市まちづくり総合交通戦略の概要

1. はじめに

戦略策定の背景・目的

- 第6次小山市総合計画で示した“住みたい・住み続けられる人と企業を呼び込むプロジェクト”の実現を目指し、快適な市民生活のためのまちづくりと持続的発展を支える総合的な交通体系の一体的推進が急務
- 短期的・中期的に対応すべきまちづくり交通の具体的な施策を推進するために策定

計画期間

- 総合計画の計画期間と整合を図り、2015～2024(H27～H36)年度の10年間を計画期間
- 早期の効果発現を目指し、次期総合計画前期計画までの6年間をアクションプラン(短期目標)に設定

計画区域

- 市全体の将来都市像の実現に向けた都市交通分野の計画立案
- 計画区域は小山市全域

戦略の位置づけ

- 第6次小山市総合計画及び小山市都市計画マスタープランで定める将来都市像の実現に向けた施策を定める
- 小山市総合都市交通計画を基本とするともに、環境・健康福祉に関する市の計画と整合を図る
- 短期・中期に達成すべき交通施策を戦略的に推進する事業プログラムを示す

2. 小山市の現状と課題

現状

小山市の状況

- 人口、高齢化率
- 商工業の動態
- 上位・関連計画等
- 市民アンケート

- 市全体の人口は増加傾向
- 郊外部で人口減少や高齢化が進行
- 医療施設は市街地に集中、工業団地は郊外部に立地
- 市街地と郊外の田園・自然環境が調和した集約型のまちづくりが指向
- 市民は歩行者の安全性や便利な生活のための交通環境を求めている。高齢者は特に医療の利便性や自然環境との調和、公共交通が充実したまちを求めている。

まちづくりの状況

- まちづくり団体(まちづくり条例)
- 街なか居住
- 街なか居住(ソフト対策)
- 商業出店等促進事業補助金事業
- 栗宮新都心構想
- 農住まちづくり構想
- 市街地整備
- 緩和条例
- 下水道
- 工業団地
- JR貨物土地利用構想
- 白鷺大学新キャンパス
- 高齢者の外出機会増加策
- 環境対策
- 小山高専との連携

- ・鉄道駅を中心とした市街地、郊外部の各々で定住や活性化を目指し、ハード・ソフトの組合せによる様々なまちづくり施策が展開

交通の状況

- 自動車保有台数
- 駅乗車状況と駅勢圏、小山駅停車増便
- バス交通、公共交通機関の充実
- 一般道渋滞箇所
- 交通安全対策、交通事故
- CO2排出量
- 代表交通手段、端末交通手段
- 結節点
- バリアフリー基本構想
- 緑の自転車道
- 駐輪・駐車場
- 市内幹線道路網
- 歩道の整備

- ・自動車保有率は増加傾向、代表交通手段も自動車が6割
- ・バス利用は増加傾向
- ・歩行者・自転車の通行空間整備が進められている
- ・まちの中心部の吸引力向上に向け新交通システム導入が検討中
- ・引き続き、公共交通利用促進等への対応が必要

課題

- 人口増加・定住化を促す魅力あるまちづくりの推進
- 高齢化社会を支える生活・移動環境の構築
- 環境問題に対応した都市や交通のシステム転換
- 自動車交通依存からの脱却(公共交通の利用促進)

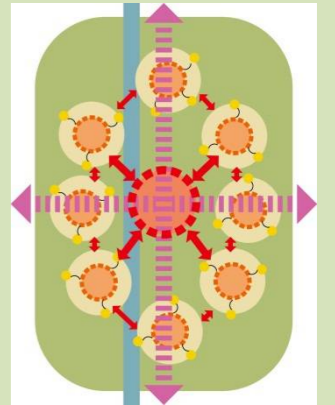
3. 小山市の目指すまちづくり交通の方向性

都市構造の方向性

環境に配慮したコンパクトなまちづくり

交通体系の方向性

- 小山市の求心力である中心市街地の魅力を高める市街地の交通利便性の更なる向上
- 安全で安心して暮らせる田園集落の生活交通の確保
- 広域的な拠点(中心市街地)に集積した都市機能を、市内全域で享受できる交通ネットワーク性の確立
- 誰もが利用でき、健康な暮らしを支える、環境にも優しい公共交通の利用促進



4. 課題解決に向けた目標と施策

交通戦略の目標

①総合的な交通体系確立のための交通手段の充実

②まちづくりと交通環境づくりの一体的な推進

交通戦略の施策

安全・安心、健康で活力ある暮らしを支える移動しやすい交通手段を確保

- 結節点の整備
- コミュニティバス
- サイクル&バスライド
- デマンドバス
- 新交通システム
- 自転車道整備
- バリアフリー
- 駐輪・駐車場
- 幹線道路整備
- レンタサイクル
- 交通安全対策

環境に配慮したコンパクトなまちづくりを推進するとともにそれを支える地域交通環境を確立・充実

- 街なか居住の推進
- 街なか居住(ソフト対策)
- 街なか賑わい拠点の創出
- 中心市街地 TMO 事業
- 小山駅周辺(JR貨物構想)
- 市街地整備(思川西部)
- 栗宮新都心整備
- 思川周辺開発
- 小山駅周辺(白鷺大新キャンパス)
- 新交通沿川の開発検討
- スマートコミュニティ
- サテライトキャンパス
- スマートウェルネスシテ

戦略指標

①まちなかの混雑時平均旅行速度増加
(小山結城線における混雑区間の平均旅行速度)
現況値:17.8km/h→目標値:21.0km/h

③公共交通(バス)利用者増加
(市内バス等の利用者数)
現況値:527,000人/年→目標値:584,000人/年

②交通利便性向上
(交通利便性の満足度)
現況値※1:18.8%→目標値:20%以上
(通勤・通学時間の満足度)
現況値:21.7%→目標値:22%以上

④CO2削減
(自動車交通による排出量)
現況値:15.4万t-CO2/年→目標値:25%削減

5. アクションプラン(重点施策)

まちづくりと一体となった新交通システムの検討

市民の外出を支えるコミュニティバスの再編

公共交通の利用促進に向けた駐輪場・駐車場の整備

安全・安心な交通環境を確保する交通安全対策

市全域をネットワークする緑の自転車道の整備

駅周辺を移動円滑化する歩道空間のバリアフリー化